

「第5回恵那峡映画祭 脚本部門応募作品」

タイトル

「ポストイット」

あらすじ

知樹と那奈は同じ中学に通う3年生。隣のクラス。那奈は一軍女子で知樹は陰キャ。普通なら接点はないはずだが、物理室の机の裏で、ポストイットのやり取りをしている。ある日、那奈が「死にたい」と書いたことで状況は変わる。父親の借金により、那奈はこの町から夜逃げする。知樹は那奈の自宅に行くも、もぬけの空。その足で物理室へ行くと、那奈からのラストメッセージを見つける。

人物表

井上知樹 (15) 男子中学生

瀬田那奈 (15) 知樹の同級生

岡本伸介 (29) 体育教師

その他、知樹・那奈の同級生や教師

ヤクザたち

○知樹と那奈の通う学校・正門（朝）

ジャージを着た岡本伸介（29）が荷物
チェックをしている。

岡本「抜き打ちの荷物チェックだ。並べ並べ」

生徒達、不満を言いながら並ぶ。

その列の最前列に井上知樹（15）。

岡本「おお。井上か。オマエは大丈夫だよな。

でもな、一応」

岡本、知樹の鞆をチェックしている。

○同・知樹の教室（朝）

知樹、窓際の席で正門を見ている。

瀬田那奈（15）、ダッシュで駆けこんで
くる。

知樹、思わず立ち上がる。

○同・正門（朝）

岡本の前に、息を切らした那奈。

でも那奈は笑顔。

岡本「瀬田。おまえはいつもギリギリだな」

那奈「今日は勘弁して」

岡本「だーめ。荷物チェック」

岡本、那奈の鞆をとろうとする。

那奈、笑いながら嫌がる。

岡本「こら。瀬田。いい加減にしろ」

岡本も笑っている。

那奈の鞆からスマホが落ちる。

那奈「あ」

岡本「はい没収」

那奈「勘弁してえ」

岡本、スマホを拾うと歩き出す。

那奈、岡本を追いかける。

○同・知樹の教室（朝）

知樹、校舎に近づいてくる那奈を見て

いる。気づくと窓際には、鈴なりの男

子。那奈をからかう同級生の声。

同級生「ざまあ」

那奈「うるさいな」

那奈、笑いながら殴るポーズをする。

○同・廊下

那奈、同級生の女子2名と、一軍女子らしく廊下の真ん中を堂々と歩く。

知樹、向かいから歩いてくるも、すつと脇によける。

知樹と那奈、目を合わさない。

○同・物理室

授業中。

那奈、教師に隠れてポストイットにメモを書き、机の裏に貼る。

○同

知樹が、那奈と同じ席で授業を受けている。

知樹、テーブルの裏を探る。そこに貼られたポストイットに、

【物理、宇宙で一番つまんない（笑）】

知樹、返事を書く。

【銀河系の】と書いて、消しゴムで消す

と、

【ぼくも】と書いて貼る。でも剥がして、

【オレも】と書き直して貼りなおす。

○同（カットバック）

那奈、付箋を書いている。

【隣の席のやつ寝てる㍻】

× × ×

知樹、付箋を書いている。

【こっちもだよ】

× × ×

那奈、授業を受けている。

○同・廊下

知樹、引き戸越しに那奈の姿を見て微

笑む。制服の胸ポケットから定期券入

れを取り出す。そこに、那奈とやり取

りしたポストイットが入っている。

知樹、視線を教室に戻すと那奈が、付

箋に何か書いている。

○同・物理室

知樹、ニコニコしながら机の裏を探る。

付箋が貼ってある。

知樹、周囲に隠して付箋を取る。

【死にたい】と書かれている。

あ、となる知樹。

教師「井上。井上」

知樹「あ、はい」

教室「どうした？体調でも悪いのか？」

知樹「いえ、すいません」

× × ×

授業終わり。

知樹、一人座っている。

ふと窓の外を見る。曇天を、鳥が飛ん

でいる。

ポストイットを取り出し、返信を書く。

【空が飛べたらいいのにね】

○同（次の授業中）

知樹、ポストイットを見る。

【そしたら、どこまでも逃げられるかな】

○学校の近くにある公園（夜）

知樹、通りかかる。

那奈、ひとりベンチに座り泣いている。

知樹、あ、となり見つめてしまう。

那奈、知樹に気づく。

キツ、と知樹を睨みつける。

知樹、慌てて去っていく。

○物理室（授業中）

知樹、付箋を見ている。

【この世から消えたいって思うことある？私がもし消えたら、誰か気づいてくれるのかな】

知樹、ポストイットに何かを書こうとするが、言葉が見つけれられない。

○同・廊下

知樹、那奈がいつも通り明るく、一軍女子として振る舞っているのを見つめる。

一軍女子A「那奈の家、行きたいってば」

一軍女子B「なんでよお。いいじゃんよお」

那奈「ウチは無理だから。無理」

○同（夕方）

岡本、竹刀を持って歩いている。

岡本「ほら、早く帰れ」

○同・物理室（夕方）

知樹、机の前に立っている。

ポストイットに返事、書けていない。

知樹「お前がいなくなったら、笑うやついなくなるじゃんか：いや、違う。俺でよければ、話聞かし：いや、そうじゃなくて」

岡本、現れ、

岡本「あれ？井上」

知樹「あ：すいません」

岡本「どうした？忘れ物か？」

知樹「いえ：帰ります」

知樹、ポストイットを掴んでポケットに入れると教室を出ていく。

○知樹の自宅・知樹の部屋（夜）

知樹、パジャマ姿でポストイットを見ている。

まだ返信が書けていない。

○教室（朝）

知樹、教室にくる。

クラスメイト達が那奈の話をしている。

同級生A「那奈、夜逃げしたらしいよ」

同級生B「お父さんの借金がヤバかったみた

い」

知樹はその言葉を聞いて、たまたらず教室を飛び出す。

○那奈の家・全景（朝）

古い一軒家（平屋）。表札に、那奈が手書きで【瀬田】。

窓は閉ざされ、雨戸が閉まっている。知樹、錆びた門を開けて入っていく。

○同・裏口（朝）

裏口のドアが開いている。

中は、荒れ果てている。

やさぐれた男達の声が近づいてくる。

男A「瀬田のヤロー、どこ逃げやがった」

男B「とりあえず、ドアぶっ壊すぞ」

玄関ドアを壊す音が聞こえてくる。

知樹、慌てて逃げ出す。

○知樹の教室

授業中。知樹の席だけ空席。

○同・物理室

知樹、入っていく。

知樹と那奈の机の裏に手を伸ばす。

付箋が貼ってある。

【ずっとありがとう。知樹くん】

知樹「瀬田さん……」

知樹、ポケットから、那奈に返信を書けなかったポストイットを取り出す。そして定期入れからこれまでやり取りしたポストイットをすべて。窓が空いており、風が吹く。ポストイットが空に舞う。知樹、必死になってその一つ一つを追いかける。

知樹「瀬田さん、瀬田さん、瀬田さん」

知樹の脳裏に、那奈の朗らかな笑い声が聞こえている。視線の先、窓の向こうに、一話の鳥が飛んでいる。鳥とポストイットが重なる。

知樹「絶対、見つけるから。絶対」

知樹、ポロリと涙をこぼす。

(了)